

聞く、撮る、創る

学術フロンティア8年間の記録と記憶



聞く、撮る、創る

学術フロンティア8年間の記録と記憶

阪神・淡路大震災後の地域社会との共生をめざした
大学の新しい役割に関する実践的研究

平成19年度～平成21年度私立大学学術研究高度化推進事業

「学術フロンティア推進事業」研究成果報告書

平成22年5月

学校法人名 神戸学院

大学名 神戸学院大学

研究組織名 神戸学院大学地域研究センター

研究代表者 伊藤 茂

(神戸学院大学 地域研究センター長

大学院人間文化科学研究科長・人文学部長)

地域と大学の絆をもとめて

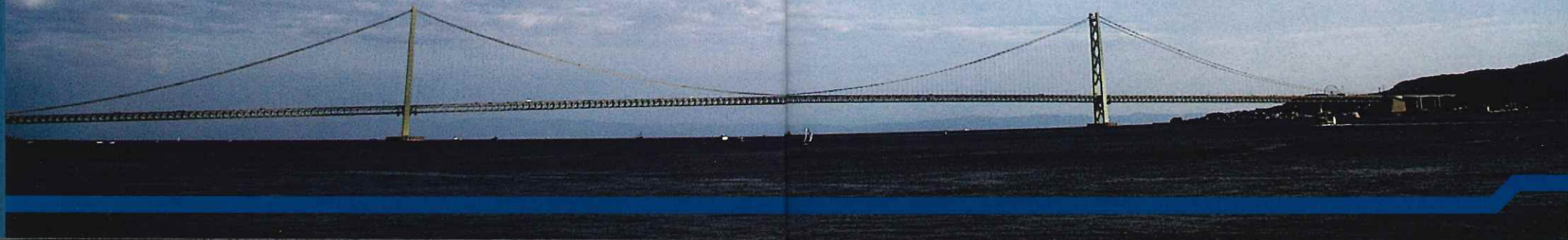
人類学の分野から地域にアプローチするにはどうしたらよいか。私たちが考えたのは、まず第一に五感をとおして地域とふれあうことでした。土地の香りのただ中に身を置き、話を聞き、現場を見て体験し、土地の暮らしと文化をじっくりと味わう。そんな取り組みをはじめから8年が過ぎました。この『聞く、撮る、創る』は、そのさまざまな経験を思い出しながら映像記録を中心に編集したものです。

3年前、私たちは『明石・大蔵谷の四季一町と人の風景』という小冊子を出版しました。明石・大蔵谷の地で一年を通じて行なわれる数々の伝統行事、お祭り、芸能などを紹介したものです。幸い、私たちが接してきた地域の方々から好評をもって迎えられました。今回は、明石の大蔵谷以外で見聞きしたさまざまな活動も紹介します。また、神戸学院大学で開催した関連の講演会や、DVD化された映像シリーズも含めて紹介することにしました。

この間に私たちが訪れた地域は、明石の稲爪神社・休天神社を中心とする大蔵谷の界隈、かつては西灘と呼ばれた明石の江井ヶ島地域、明石海峡を挟んで指呼の距離にある淡路島北淡町（現淡路市）、さらに淡路の南端から船で渡る沼島にまで及びます。さまざまな土地でいろいろな人々と出会い、多くの仕事や芸能、行事などを見せてもらいました。豊かな歴史と文化が息づいてきた地域がそこにはありました。

8年間は長いようですが、実際にはあっという間だったというのが実感です。時は過ぎ、人々の生活も変化しています。今の暮らしもそのうち、とおい昔のことになるでしょう。連綿と受け継がれてきた文化は地域の財産です。時が現在を風化させないためには正確な記録が必要です。微力ながらも私たちが集めた記録が、地域の人たちの記憶とつながって、過去からのすばらしい伝統を未来に伝え、地域をさらに豊かにする役に立てばと願っています。

神戸学院大学地域研究センター文化人類学分野（寺嶋秀明）



index

前書き..... 2

踊る..... 6

楽しむ..... 24

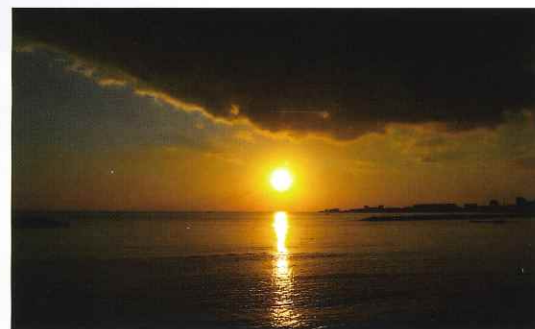
作る..... 44

獲る..... 50

見せる..... 54

聞く..... 62

記録する..... 70



謝辞

本書『聞く、撮る、創る 学術フロンティア8年間の記録と記憶』を発行することができましたのも、明石・大蔵谷のみなさまの多大なるご支援、ご協力があったことでした。わたしどもの一方的なお願いにもかかわらず、訪問した際に快く迎えてくださり、心から感謝いたします。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

文部科学省学術フロンティア推進事業

阪神・淡路大震災後の地域社会との共生をめざした

大学の新しい役割に関する実践的研究（文化人類学分野）

聞く、撮る、創る 学術フロンティア8年間の記録と記憶

2010年3月31日 発行

編集・製作 寺嶋秀明・早木仁成・五十嵐真子・米山知子・岩谷洋史

発行所 神戸学院大学地域研究センター

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL. (078)974-1551 (代)

印刷・製本 協和印刷株式会社